

2012年12月 日本の稲作を守る会便り

24年最後の配送のお米は

有機栽培米 玄米・白米 郡司利一さん(茨城県水戸市)

次回1月のお米配送は1月5日(土)の予定です。都合の悪い方
対応させていただきますのでご連絡ください。

茨城県水戸市の郡司さんのコシヒカリをお送りします。放射線量下限値10bqで測定して、「検出なし」のお米ですので安心してお召し上がりください。

郡司さんは当会が「成苗2本植え研究会」と言っていた時代から40年来の生産者会員です。郡司さんは皆さんに美味しいお米をお届けしようと たくさんの有機質肥料を田んぼにいらしてまいりました。皆さんからの受領カードには「まずい」という評価をいただきショックを受けられました。肥料をたくさん入れれば食味があがると思われる生産者が多いのです。稲づくりは子供を育てるのと同じで、なんでも多く与えればよいというわけではないそうです。民間稲作研究所の指導もあって、肥料を入れずに作られています。

そこで5年前に余計な肥料を中和して土壌を改良するために竹炭を焼き、その粉末を田んぼにまく計画をされました。竹林で竹を切っているとき、チェーンソーが跳ね、左の頸動脈を切ってしまいました。おひとりで作業をされていたのですが、たまたまその作業を遠くから見ておられた方がいて事故に気づき救急車をよんでくれたそうです。そのうえその方は元看護師さんだったので、止血をしてもらい無事病院にたどり着いたそうです。大動脈まであと数ミリの世界だったそうです。長い治療生活の末無事生還されましたが、今でも左手は腰のあたりまでしか上がらないそうです。

もう稲作を諦められるのかと聞いておりましたら、休作はその年1作だけで翌年はもう有機栽培に取り組まれました。当会にお米を搬入するのに右手だけで3t車を一人で運転されてきます。頭の下がる思いのお米を入荷しております。茨城県も福島原発事故の風評で個別販売が伸びず苦労されています。なんと茨城県の県都水戸市で有機栽培の稲作に取り組んでいるのは郡司さん御一人だそうです。市も農協も相手にしてくれないそうです。(栃木県の県都宇都宮市でも正式に有機栽培をされているのは当会の生産者会員手塚さんひとりという厳しい現実ですが)。

生活にあふれるネオニコチノイド

過日、エコファーマーと言われる稲作農家の方のお話を伺う機会がありました。農薬を播種の時1回と穂ばらみ期に無人ヘリコプターで1回まく特別栽培をされているそうです。環境にやさしい農業をやっていると自慢されました。ネオニコチノイド系農薬をつかわれていませんかとぶしつけな質問をしましたところ、わからないという答えが返ってきました。なぜかという商品名は知っていますが、成分名は知らされていないのです。農協から前年に農薬の注文をさせられ、(気象状況や病害虫の発生が分からないうちに)、一勢防除の名のもとにヘリコプターで空中散布されてしまいます。



イラスト: 安富佐織